

最近「ケア」という言葉をよく耳にします。今日の医療・福祉の場において大切な「ケア」についてさまざまな視点からはなしあいをできればと願います。人が人をケアするとはどういうことなのか、真面目に考えてみたいと思います。

グリーフケアを考える

一人は大切なものを喪失し、なぜ悲しみ嘆くのか

講師 高木 慶子 (上智大学特任教授、上智大学グリーフケア研究所特任所長)

私たちは思いがけない時、各自にとって大切なものを失くし苦しみます。人生は喪失体験の連続であり、悲しみ苦しみは日常的に感じるのではないのでしょうか。思いどおりにならない日々の中にあって、それでも私たちはあえぎながらも幸せを求めて生きています。その幸せを求める力を各自は自分の中に持っていることにも気付きたいと願っています。

日時 2015年 2月28日 (土) 13:30~16:30

場所 関西セミナーハウス ※会場への地図は裏面をご覧ください。

参加費 2,000 円、学生 500 円 (コーヒー込み)

要申込み 2月25日までに Fax(裏面)、電話、電子メール、webフォーム等でお申し込み下さい。



高木 慶子 TAKAKI Yoshiko

熊本県生まれ。聖心女子大学文学部心理学科卒業。上智大学神学部修士課程修了。博士(宗教文化)。

現在、上智大学特任教授、上智大学グリーフケア研究所特任所長。「生と死を考える会全国協議会」会長。「兵庫・生と死を考える会」会長。援助修道会会員。

二十数年来、ターミナル(終末期)にある人々のスピリチュアルケア、及び悲嘆にある人々の心のケアに携わる一方、学校教育現場で使用できる「生と死の教育」カリキュラムビデオを制作。幅広い分野で全国的にテレビや講演会で活躍中。

著書として、『喪失体験と悲嘆—阪神淡路大震災で子供と死別した34人の母親の言葉』(医学書院)、『大切な人をなくすということ』(PHP出版)、『悲しみの乗り越え方』(角川書店)、『悲しんでいい〜大災害とグリーフケア〜』(NHK出版)、『悲しみは、きっと乗り越えられる』(大和出版)『それでもひとは生かされている』(PHP研究所)など多数。

- ◎スケジュール◎
- | | |
|-------------|------------------|
| 13:30～15:00 | 挨拶・講師紹介
講演・発題 |
| 15:00～15:20 | コーヒープレーク |
| 15:20～16:20 | 質疑とはなしあい |
| 16:20～16:30 | まとめとアンケート記入 |



2014年度 修学院フォーラム

社 会

「エネルギーを考える」

第3回 2015年1月11日（日）～12日（月・祝）

「原発、この避けて通れない課題とどう向かい合うか」

* 「原発の安全性、経済性、倫理性」

講師：植田 和弘（京都大学大学院経済学研究科長）

* 「あらゆる核から解放された世界の実現のために

—世界の教会が大切にしている視点とは—

講師：西原 廉太（立教大学副総長）

福 祉

第3回 2015年3月7日（土）

「「葬儀と墓」は誰のために、何のために

～キリスト教と仏教の立場から考える」

講師：塚本 潤一（頌栄短大准教授）

池口 龍法（浄土宗 龍岸寺住職）

【申込み・問合せ】

公益財団法人日本クリスチャン・アカデミー

関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

<http://www.academy-kansai.org>

電話 075-711-2117

FAX 075-701-5256

電子メール office@academy-kansai.org

所長代行 榎本 栄次

担 当 都木かおり



* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

———2014年度 修学院フォーラム「いのち」第3回 参加申込書———

(フリガナ) 名 前	所 属
住 所 〒	
電話 ()	FAX ()
電子メール :	@
通信欄 :	